

# 令和2年度 事業報告

## I 概要

前年度に端を発した「新型コロナウイルス感染症」は、感染者数の大小に波はあったものの、年度を通じすべての日常生活・社会活動・経済活動等に大きな影響を与えました。「三密」を避けることが大前提となり、人が集まることにブレーキをかけることが余儀なくされました。四日市市シルバー人材センター(以下「当センター」という。)は、幸いにも発注先にサービス業・飲食業・観光業が極めて少なく影響が軽微であったうえ、事務費率の2%引き上げもあり、「契約金額」は、前年度を上回ることができました。しかし、特に緊張感が高まっていた年度の前半は、新規入会・就業に対するモチベーションが大きく低下し、「会員数」と「就業率」向上のマイナス要因となりました。当センターは、このような環境下においても「感染防止」に最大限の注意を払ったうえで、「生きがいと地域ニーズを結ぶ組織」を目指すという方針のもと、事業計画の三つの目標値の達成に強いこだわりをもって運営してまいりました。

また、年度を通じ、シルバー人材センターの理念「自主・自立・共働・共助」を遵守した業務運営を心掛け、第4次中期計画や令和2年度事業計画に基づき、理事会、各部会・委員会に諮りながら事業を進めました。

その結果、令和2年度事業計画の三つの目標値に対する実績は次のとおりでした。

項目	目標値	実績
会員数	1,605人	1,411人
契約金額	774百万円	829百万円
就業率	89.0%	88.2%

今年度の目標値に対して「契約金額」は、目標を達成することができましたが、「会員数」と「就業率」は、未達となりました。また、3年目となる第4次中期計画の目標値に対しては、「契約金額」は大幅(約70百万円)に上回りましたが、「会員数」と「就業率」は未達で、最大の課題とした「会員数」は、目標値を下回り乖離幅が大きくなりましたので、令和3年度の事業計画では実態に即した目標値に修正しました。

令和2年度の主な取り組みは、次のとおりです。

### (1) 会員の拡大について

- ① 定例入会説明会は、第2水曜日と第4水曜日(あさけプラザ)の月2回(年間24回)開催を予定していましたが、感染拡大の兆しが見られた4月から5月にかけて3回中止しました。これを機に、「四日市ホームニュース」での開催案内に個別対応の随時入会説明会のPRを追加しました。
- ② JR四日市駅のサテライトオフィスが新規入会者の窓口として想定外の役割を果たしました。ハローワークからの紹介と密を避けるための目的とで、個別の随時入会説明会を受けられた方が年間に46名(内19名がハローワーク経由)もあり、その内35名が入会されました。
- ③ 三重県シルバー人材センター連合会主催の「育児体験講習」とセンター独自の「剪定体験講習」で、講習の最後ではなく途中で時間を設け、入会説明会をしました。参加者同士で相談したり、声を掛け合ったりする時間が出来たことで反応良く、即日入会に繋がりました。新年度からの入会を希望される方も入会の意思が固く、今までにない成果があげられました。
- ④ 女性会員を増やす為に、女性部の主催で「茶話会形式による女性限定入会説明会」を2回実施しました。試行の段階ですが、和気あいあいとした雰囲気でも話も弾み入会に繋がるものと確信しています。

- ⑤ 入会説明会終了後、業務課員が積極的に参加者とコミュニケーションをとることで、意向の聴取と提案がその場で進み、スムーズなマッチングに繋がりました。その結果、説明会実施当月中の入会率が高水準で推移しました。
- ⑥ 入会のハードルを更に低くするため、県と国のシルバー人材センターに確認し、次年度より入会手続時の押印を不要とするための準備をしました。

## (2) 就業機会の確保について

- ① 公共運動施設の受付の仕事は、今まで男性に限定されていましたが、パソコンの操作が必須となって以来敬遠される職種となりました。そこで、スポーツ協会と当センターの事業部会の承諾を得て、令和3年度から女性の配置も可能としました。
- ② サービス業で65才以下という年齢制限をしていた民間企業がありましたが、先方の要望にお応え出来る会員を紹介したところ、いとも簡単に年齢制限が撤廃されました。マッチング担当者の熱意と人を見る眼が評価された好事例でした。
- ③ マッチング担当者の丁寧で熱心な仕事ぶりが、会員・発注者双方からの信頼を更に高め、新規就業先の獲得に繋がりました。
- ④ コロナ禍で軽微とはいえ民間企業からの仕事が減りました。終息の目途がたたないのと、終息後もすぐには回復しそうもないので、早期に新規の民間企業の仕事を獲得しなければなりません。そこで、四日市商工会議所の会員事業所(約4,000社)向けの広報誌にチラシの折込をする準備をしました。
- ⑤ 新規入会者研修終了後に未就業者に対して業務課員が積極的に個別面談をしました。ここでの面談も早期就業に繋がりました。
- ⑥ 前年度に引き続き、全会員を対象に会員状況調査票を送付、回収することにより、登録されているデータを更新しました。現在の状況を「シルバーで就業中」「他で就業中」「兼務」「未就業(理由)」で区分してカルテに入力、マッチングの参考にしました。

## (3) 安全・適正就業の推進について

- ① 新型コロナウイルス感染防止で人の集まる行事は、中止ないしは縮小しましたが、安全委員会は、パトロール、各種講習会、安全標語の募集等ほぼ例年通り実施しました。また、健康診査の受診促進にも努めました。しかし、残念ながら重篤事故が2件発生しました。この2件については、発生原因の追求だけでなく、再発防止について機会あるごとに会員への周知・徹底に努めました。
- ② 事故報告があると業務課長が自分の目で現場を確認し、原因を追究したうえで、「速報 安全就業だより」を作成し、再発防止に努めました。
- ③ チェーンソー使用者の事故防止のためチェーンソー用の手袋とズボン(チャップス)を準備し利用を促しました。
- ④ 刈払機安全取扱講習会を外部講師を招いて2回実施しました。
- ⑤ 常に就業状況をチェックし、働き方が請負あるいは派遣に合致しているか検討しました。前年度に引き続き派遣先に対しては、総務課が「働き方改革」の一環として「同一労働、同一賃金」の視点で発注先のチェックをしました。

## (4) 地域活動の充実について

- ① ブロック会議に事務局長・次長・課長が担当ブロックを分担して参加し、当センターの運営状況や課題を共有化するとともに、各地区の状況、課題等について情報交換しました。
- ② 班長会議を開催し、ブロック会議での議論を各地区で共有化するとともに、地区内の状況、課題を話し合い、会員の拡大に向けて会員間の連携強化に努めました。
- ③ 地区長・班長全体会議を新型コロナウイルス感染対策として地区長だけの出席に限定した「地区長懇談会」としました。

## (5) 情報発信の強化について

- ① 広報誌「虹の橋」(年2回)、「センターだより」(年3回)を会員向けに発行しました、また、ホームページからでも見れるので当センターの活動をより多くの人に知ってもらえます。
- ② 市役所を通じたPRとして、市の広報誌で入会説明会・講習会等の案内をしました。また、本庁と23か所の地区市民センターの窓口にPRが入った封筒を提供するとともに、パンフレットスタンドを活用しました。
- ③ 「四日市ホームニュース」で月に2回(隔週の土曜日)、定例の入会説明会の案内をしました。今年度は新型コロナウイルス感染の拡大に合わせて個別対応の随時入会説明会を強調する文面も追加しました。また、年2回発行の四日市市老人クラブ連合会の機関紙「四老連いきいきだより」にも引き続き広告を掲載しました。
- ④ CTY-FMで月1回「シルバー人材センターからのお知らせ」というコーナーを設け、センターの職員が時季に応じた話をさせていただくなど、マスコミを利用したの情報発信に取り組みました。
- ⑤ JRのサテライトオフィスで同好会活動を行い、駅利用者に練習風景をガラス越しに見てもらおうことでシルバーの活動の一端をPRしました。
- ⑥ 入会説明会でのPR映像、JRサテライトオフィスでの外部向けモニター映像、ホームページのトップ画面として流すPR映像2種類を広告会社に依頼して作成しました。

## (6) 情報収集の強化について

- ① 当センターのことを職員・会員がよく知ること。  
どのくらいの規模なのか、全国で1,335あるセンターでのポジションを前年との対比で示しました。会員数は、全国89位(△1ランク)、契約金額は全国65位(△3ランク)でした。会員数・契約金額の全国ランキングが想像以上に上位であること、当センターは契約金額は順調に推移しているものの、会員数は、多くのセンターと同様に増加に苦慮していることを理解してもらいました。
- ② 会員のことを職員がよく知ること。  
前年度に引き続き、「会員状況調査」を実施しました。会員自身と取り巻く環境が毎年変化していることがよくわかりました。緊急連絡先を2ヶ所に拡大したことで緊急時の対応がより確実になりました。ご意見・ご要望のほか就業状況を把握することで兼業している人の実態が掴めました。
- ③ 他のセンターのことをよく知ること。  
今年度は感染防止のために他のSCに行くことも、また、他のSCが来ることも全てが止まりました。しかし、県内のSCはもとより過去に視察研修に行った、またはこれから視察研修に来る予定だった県外のSCと積極的に電話で情報交換をしました。感染防止対策に始まり、人を集めないPR手法、会員数・契約金額への影響等コロナ禍でつい見失いがちな指針を改めて確認することができました。雑誌「月刊シルバー人材センター」から常にヒントを探しました。読むだけでなく、実際に直接意見交換をしました。逆に、他のSCで見かけない当センターの好事例を出版社に紹介することも情報収集に繋がりました。「同誌で見ましたが詳しく教えてください。」との電話が入り、想定もしないSCとの情報交換ができました。

令和2年度の取り組みを通して、次のことが課題になってきました。

- ① 自信を持って紹介できる仕事のストックが十分にあるだろうか。  
新型コロナウイルス感染防止がマスコミで声高に喧伝され始めてから1年以上が経過し、すべての活動を自粛するのが当然で、これから外れることは許されない世の中でした。それでも、半年が過ぎた9月頃から新規入会者の数がコロナ禍前の水準に戻り、改めて求職に対する意欲の高さに驚かされました。このような環境下でも、入会を希望される方々の期待に応える仕事を私たちは用意しているのだろうか、特に女性向けの仕事は、職種が限定されているのではないだろうかという課題が見えてきました。また、その仕事も性別・年齢制限が条件になっていたりマッチングの障壁になっています。今までセンターは、民間事業所からの求人はほぼすべて先方の固定観念に基づく求人条件をそのまま受入れてきました。これからは、会員の有する能力と要望について十分把握したうえで民間事業所の担当者に制限の緩和等を提案をしていく必要があります。

② 就業体験を会員の拡大の一つの柱として捉える必要があります。

通常の入会説明会では、剪定・除草・育児・介護等の仕事については十分な説明が出来ず、特に剪定と除草は新規に就業される人も少なく、高齢化も原因で人員不足の状態が続いていました。現場からの要請もあり、入会説明会で仕事の紹介はするものの、極めて限定的なものとなり、到底新規の就業者を増やすことは不可能でした。そこで、剪定担当職員の企画で、高齢者活躍人材確保育成事業として三重県シルバー人材センター連合会が主催する「剪定体験」の申込者に対して、センター独自で開催する「剪定体験」への参加を呼びかけたところ、熱心で、1回の体験会では満足出来なかった人が集まりました。この人たちに剪定の仕事について時間をかけて詳しく説明し、入会説明をしたところ多くの入会意思が確認できました。

③ コロナ禍で見落としてしまったことはないだろうか。

新型コロナウイルス感染防止がすべてに優先し、最大の課題であったことは言うまでもありません。契約金額は、県内外のほとんどのSCが程度の差こそあれ大きくマイナスしていることが多方面から聞こえてきましたが、当センターは、幸いにも影響が軽微で、年間を通し前年同月比がプラスで推移し最終的に僅かではありますが前年比プラスで決算することができました。しかし、実態は事務費率の2%アップによるものであり、就業者数と配分金はマイナスしています。一見順調な様子だったので危機感が薄れ、仕事が減少した、あるいは、全く無くなってしまった発注先に対する関心と、それ補うべき新規発注先の開拓への関心が低くなってしまいました。このままでは今後苦戦が予想されます。早々に、発注先の新規開拓と就業者数の増加に傾注する必要があります。

これらの課題に対処するために、次年度も引き続き新型コロナウイルス感染防止を最大の課題としたうえで、入会者を増やすために、『当シルバーの認知度向上』と『個々の会員に見合った仕事の充実』を、また退会者を抑えるために『会員の声を聞く組織』の三つを主要なテーマとして事業に取り組んでいく方針です。

これらの事業を推進していくためには、組織に安定と活性化が必要です。「しっかりした組織」「明るく元気な会員と職員」を維持発展することが求められます。

令和2年度の主な実績は次のとおりです。

項 目		令和2年度	令和元年度	対前年度比 (%)		
会員数	男 性 ( 人 )	945	955	99.0		
	女 性 ( 人 )	466	479	97.3		
	計 ( 3月31日現在 )	1,411	1,434	98.4		
就 業 状 況	受託件数 (件)	請負・委任	公 共 市 役 所	489	514	95.1
			公 共 そ の 他	270	289	93.4
			民 間 事 業 所	3,432	3,750	91.5
			一 般 家 庭	7,918	8,261	95.8
			介護保険事業	707	756	93.5
			総合事業(サービスA)	939	898	104.6
			上 記 以 外	6,272	6,607	94.9
			独 自 事 業	12	36	33.3
	小 計	12,121	12,850	94.3		
	派 遣 事 業	452	433	104.4		
合 計	12,573	13,283	94.7			
就 業 実 人 員 (人)	請 負 ・ 委 任	1,141	1,141	100.0		
	派 遣 事 業	103	103	100.0		
	合 計	1,244	1,244	100.0		
就 業 延 日 人 員 (人)	請 負 ・ 委 任	134,137	140,375	95.6		
	派 遣 事 業	10,827	10,576	102.4		
	合 計	144,964	150,951	96.0		
就 業 率 ( % )		88.2%	86.8%	101.6		
配 分 金 及 び 賃 金 ( 千 円 )		648,902	654,085	99.2		
契 約 金 額 (千円)	請 負 ・ 委 任	公 共 市 役 所	248,734	231,663	107.4	
		公 共 そ の 他	130,954	122,018	107.3	
		民 間 事 業 所	237,590	254,520	93.3	
		一 般 家 庭	144,505	141,333	102.2	
		介護保険事業	17,029	17,184	99.1	
		総合事業(サービスA)	6,753	5,945	113.6	
		上 記 以 外	120,723	118,204	102.1	
		独 自 事 業	153	513	29.8	
	小 計	761,936	750,047	101.6		
	派 遣 事 業	67,353	63,942	105.3		
合 計	829,289	813,989	101.9			

## II 主な活動状況

### 1 会員の拡大

#### (1) 会員の入・退会

##### ① 入会説明会

(単位:人)

説明会の種別	参加者数	当月入会者数
センターでの入会説明会	109	64
あさけプラザでの入会説明会	47	25
地域入会説明会	—	—
随時入会説明会	8	7
育児就業体験講習	4	2
剪定体験講習	6	0
JRサテライトオフィス	36	24
女性部主催の「おしゃべり会」	10	0
合計	220	122

※令和3年4月に4名入会

##### ② 会員数の推移

(単位:人)

年度	説明会参加者	入会者	退会者	年度末会員数
平成28年度	251	177	173	1,451
平成29年度	244	159	175	1,435
平成30年度	281	181	151	1,465
令和元年度	265	170	201	1,434
令和2年度	220	160	183	1,411

#### (2) 会員の資質向上

① 新規入会者研修を開催し、接遇マナー・各種ハラスメント・安全就業について注意喚起をしました。

(単位:人)

開催日	参加者数
6月26日(金)	15
8月28日(金)	18
10月23日(金)	9
12月16日(水)	13
令和3年 2月26日(金)	15
合計	70

## 2 就業機会の確保

### (1) 会員状況調査票により登録データの更新と就業の現況等を調査

調査対象	対象者数(人)	回答者数(人)	回収率
入会して1年未満の会員を除くすべての会員	1,323	1,113	84.0%

### (2) 独自事業(パソコン教室)の推進

開催回数	12
------	----

### (3) 高齢者活躍人材確保育成事業

公益社団法人三重県シルバー人材センター連合会が実施する技能講習と就業体験を、会員の拡大に活用しました。

高齢者活躍人材確保育成事業 技能講習・就業体験・セミナー (市内開催分)		
講習名	実施日	受講者数(人)
育児のおしごと体験講習	12月1日～12月4日	6
剪定就業体験	1月22日	8
合計		14

## 3 安全適正就業の推進

### (1) 安全委員会の活動

- ① 重篤事故が2件発生しましたので、現地確認・発生原因・今後の対応について十分な意見交換をし、再発防止を訴えました。
- ② 安全就業啓発事業として、会員から安全標語を募集し、優秀作品を広報誌で発表しました。応募が75点あり、安全委員会で最優秀作品1点、優秀作品2点、入選3点を選び、最優秀作品はセンターや公共施設の入り口に掲示した他、就業報告書等に印刷し会員への安全啓発に利用しました。

最優秀作品 「いつまでも 若いと思うな けがのもと」

- ③ 日常的に仕事で自動車の運転をされる人11名と車両事故を起こした1名を対象に四日市自動車学校で安全運転講習をしました。安全性テストの診断結果により自分の運転を見直してもらいました。
- ④ 平日の夜間と土日祝祭日の緊急連絡先を、広報誌にて継続的に会員に通知しました。3年が経過し、「緊急」の意図が理解されてきていますが、更なる周知に努めます。

### ⑤ ヒヤリ・ハット推進状況

項目	令和2年度	令和元年度
体験事例報告件数	9	24

## ⑥ 事故の発生状況

(単位:件)

項目	年度	令和2年度	令和元年度
傷害事故		17	14
	住居と就業場所との移動中	2	1
	就業中	15	13
賠償事故		17	5
	草刈機の飛び石等	11	4
	その他	6	1
車両事故		6	2
合計		40	21

## (2) 健康づくりの推進

- ① 会員の健康への自覚を高め、健康診断受診を促進するため、受診の有無をセンターに報告する取り組みを本年度も行いました。

項目	令和2年度	令和元年度
送付数	1,436	1,451
回答数	585	601
回収率	40.7%	41.4%

## 4 就業能力の向上

職群班ごとにテーマを決めて取り組んだ研修の実施状況は次のとおりでした。

職群班	研修内容
生活支援	提供するサービスの質を向上するため、「生活110番事業」と連携して生活支援サービス班長会議を2ヶ月に1回開催しました。毎年参加して意識の向上を図ってきた除草班の全体会議、安全就業等の講習はすべて中止になりました。
介護	訪問介護(介護保険)事業では、要介護、要支援状態にある高齢者に対して適切な訪問介護を提供できるよう、介護ヘルパーリーダー会議とヘルパー勉強会を開催しました。今年度の勉強会は「コロナウィルス対策」と「入浴介助・衣服の着脱」の2回にとどまりました。
子育て	月に1回保護者も交えて「ピッコロ調整会議」を開催し、困ったことについて共に解決策を話し合い、知識・技能の向上を図りました。「育児就業体験講習」を当センターで開催し、受講された4名のうち2名が入会されました。
除草	技能向上と安全作業の徹底を図るため、外部講師による「刈払機安全取扱講習会」を実施し、15名が受講しました。



## 5 普及啓発の推進

新型コロナウイルス感染防止のため、ほとんどの活動を中止しました。

啓発活動	実施日	場所	参加者数
エキサイト四日市・バザールへの出店およびパンフレットの配布	中止	諏訪新道周辺	—
春の全国交通安全運動の啓発活動でパンフレットを配布	中止	イオン四日市尾平店、四日市北店の店外	—
大四日市まつりの「おどりフェスタ」へ参加	中止	三滝通り周辺	—
大四日市まつり後の清掃ボランティア	中止	諏訪新道周辺	—
秋の全国交通安全運動の啓発活動でパンフレットを配布	中止	イオン四日市尾平店、四日市北店の店外	—
三重県シルバーの日	9月1日～11月15日	各地区15ヶ所	293
地域ボランティア	随時	3ヶ所	59
清掃ボランティア	12月10日	近鉄四日市駅周辺	138
三シ連普及啓発活動	中止	日永カヨーショッピングセンター	—
清掃ボランティア	3月11日	南部丘陵公園	102

## 6 財政基盤の確立等

法人の運営状況を詳らかにするため、予算の執行状況を毎月理事会に報告するとともに、定款の規定に基づき理事長・副理事長・常務理事の職務執行状況を理事会に報告しました。

市に当センターの経営状況等を説明し、補助金の確保にも努めました。

## 7 組織の強化等

### (1) 地域班活動の充実

今年度は、新型コロナウイルス感染防止のためブロック会議・班長会議の開催が制限されましたが、当センターの運営状況を伝えるとともに、会員拡大への協力依頼、地域の課題整理などの取り組みを進めました。

項 目	令和2年度	令和元年度	平成30年度
ブロック会議	7	11	14
班 長 会 議	39	61	61

### (2) その他の取り組み

今年度は新型コロナウイルス感染防止がすべてに優先した1年間ではありましたが、出来る範囲で、また、出来る方法で理事会をはじめ各部会・委員会、女性部の活動の充実に取り組むとともに、会員互助会と連携を図り、会員拡大等当センター発展の視点を共有した活動を進めました。

## 事業報告の附属明細書について

令和2年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条3項に規定する、附属明細書の「事業報告の内容を補足する重要な事項」はありません。